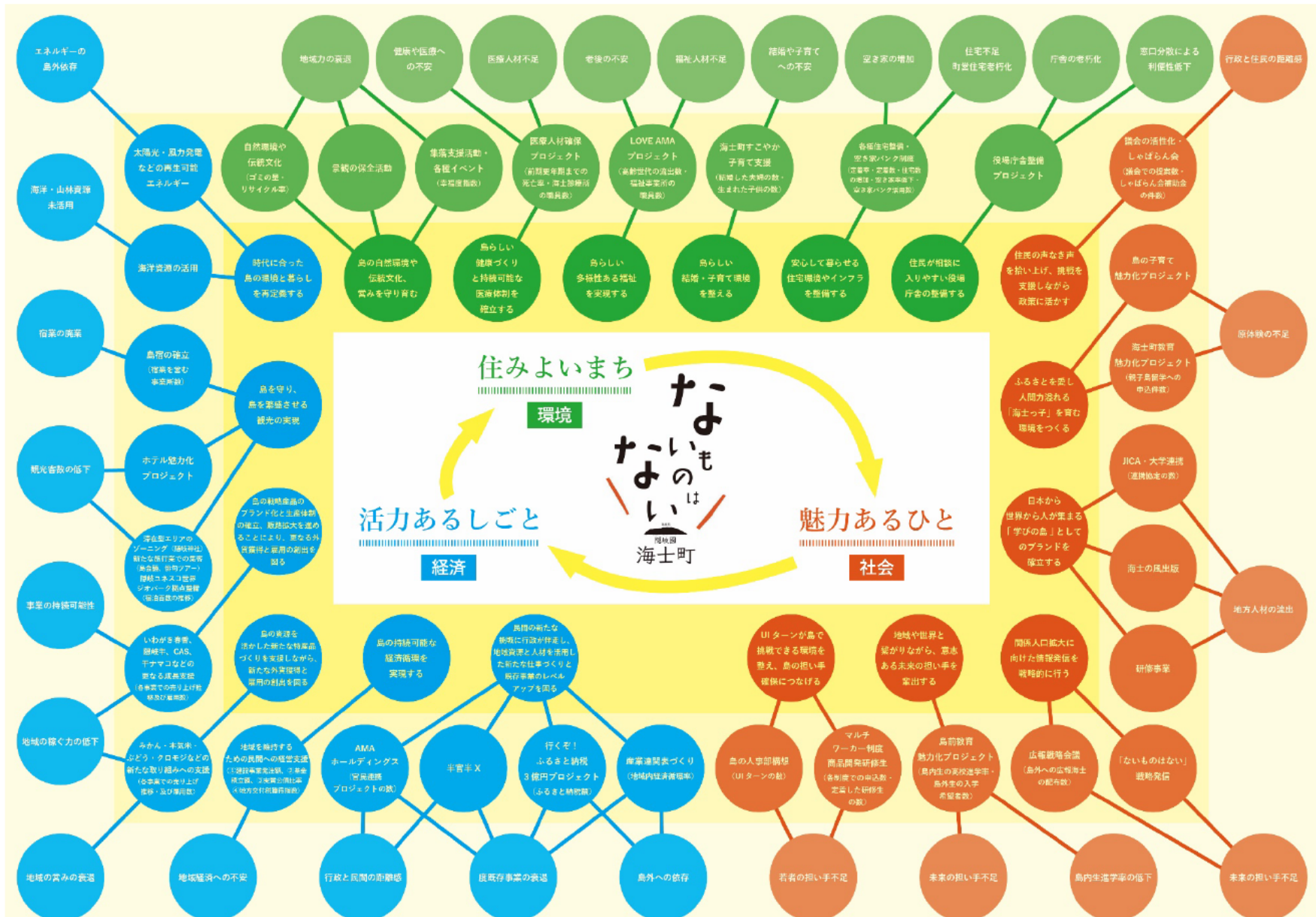


環境で地方を元気にする  
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業  
**成果報告会 発表資料**

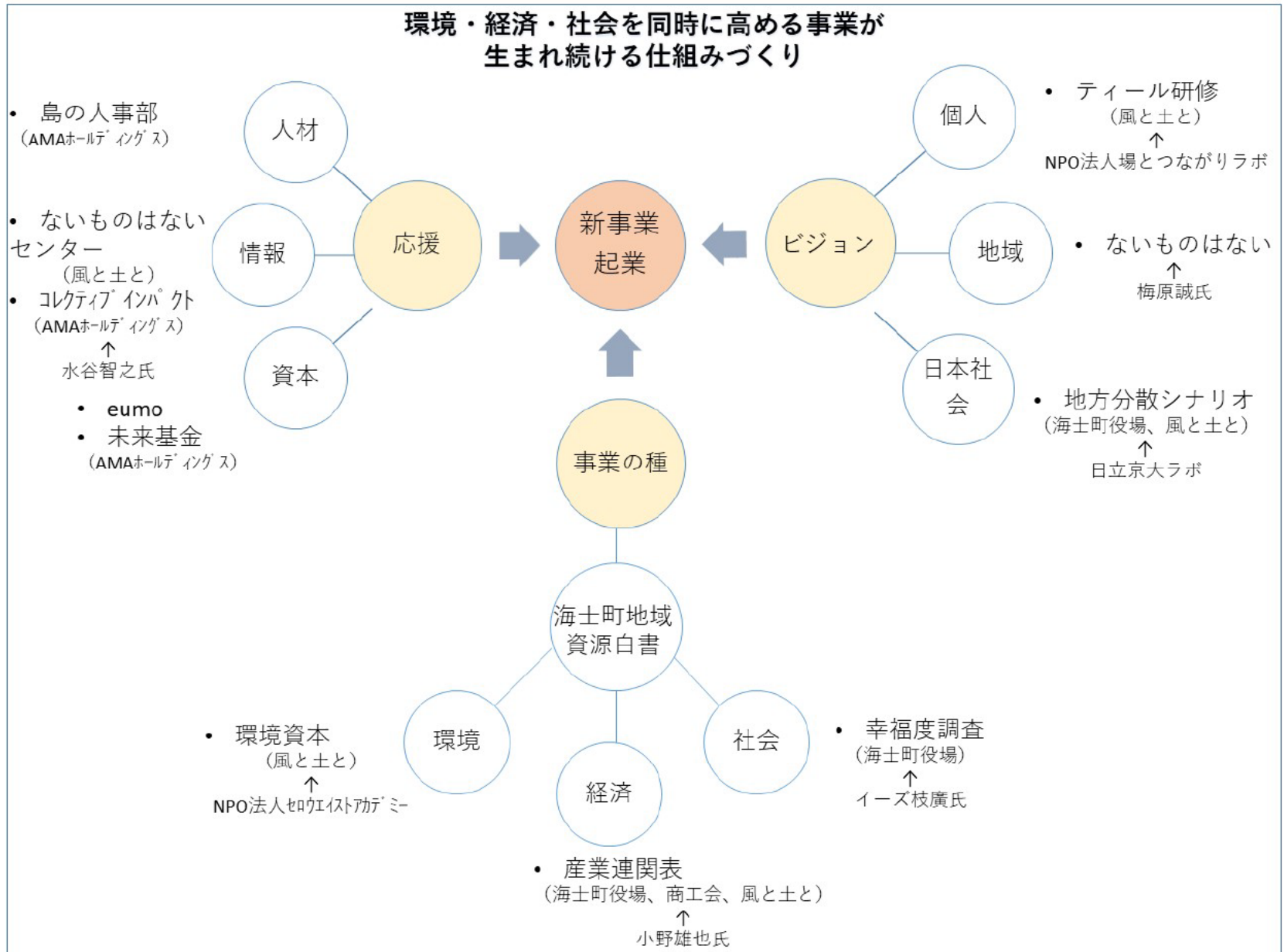
活動団体名：AMAホールディングス株式会社  
活動地域：島根県隠岐郡海士町

活動におけるテーマ・キャッチコピー  
環境・経済・社会を同時に高める事業が生まれ続ける仕組みづくり

# 地域循環共生圏を活用して目指す地域の姿



# 地域循環共生圏を活用して目指す地域の姿



# 地域のビジョンを実現するための成果指標

目指す姿：

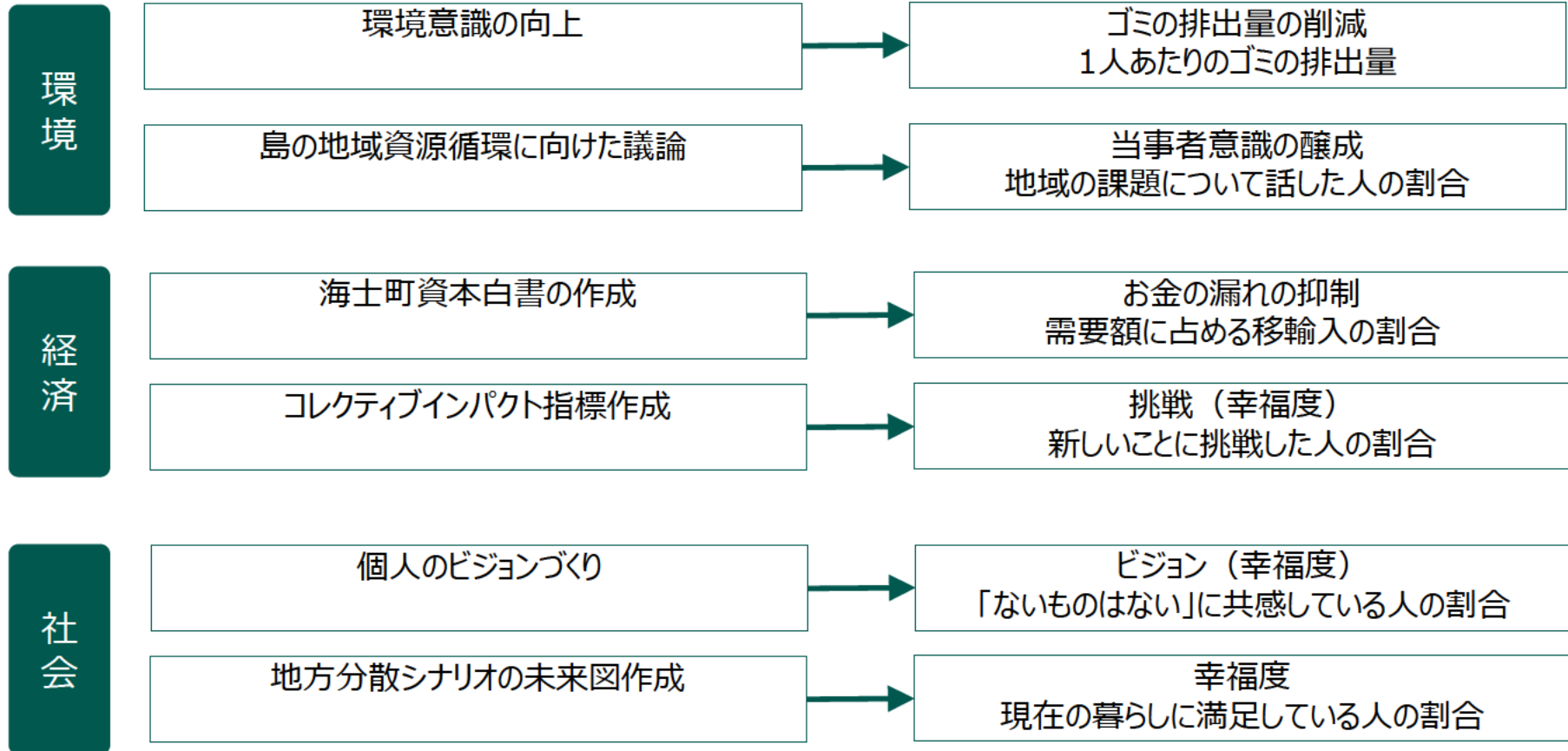
自然と伝統文化、経済、最先端技術の調和の中で、老若男女みんなが手を取り合い21世紀を切り拓く島  
(経営指針：自立・挑戦・交流×継承・団結 みんなでしゃばる島づくり)

基本姿勢：

島にあるものに目を向け磨きながら、島内外での心の通った関係づくりを重ねることで、島に新たな活力を生み出す。(海士町の生き様：ないものはない)

短期目標

長期目標



# コアとなる事業の概要3つ（事業のタネ）

1	事業の名称	<b>事業の種の見える化（環境・経済・社会のリソース見える化）</b>	
	事業の概要	<p>環境資本調査（環境）、産業連関表（経済）、幸福度調査（社会）を行い、そこから見えた事業化の種を白書にまとめ、海士町内に全戸配布する。</p> <p>環境資本については2019年度に基礎調査や話し合いなどを行ったため、2020年度はそこから見えた具体の調査を進めていく。経済・社会については2019年度に行った調査から事業の種をリストアップし、最終的には3つの資本をまとめた「海士町資本白書」を作成する。</p>	<p>想定される課題・ボトルネック</p> <p>1、環境分野調査における専門家の協力 2、白書を作成するにあたり、島民にわかりやすいものにする必要があり、そのためにはデザインを専門とする人との協働が必要となる。</p>
2	事業の名称	<b>海士町のビジョン作成</b>	
	事業の概要	<p>事業を起こすための個人・地方・日本社会のビジョンを持つことが必要であり、具体的な方策は以下となる。</p> <p>○個人…嘉村賢州氏と共創しているティール研修を行う。個人が自分のWillやビジョンが事業とどう結びついていくのかを認識、力が最大限発揮されることで事業が推進される。</p> <p>○地方…「ないものはない」という海士町のキャッチフレーズを世界の合言葉化していくことによって、海士町内でも改めて「ないものはない」について協議しブラッシュアップしていく。</p> <p>○日本社会…地方分散シナリオの未来の実現のために、その指針となる一枚絵を描く。その実現に向けて、様々な施策も検討される。</p>	<p>想定される課題・ボトルネック</p> <p>地方分散シナリオを島内の人（例えば島前高校生）と一緒に共同研究を進めていきたい。その際に地方分散シナリオを研究している日立京大ラボの支援が必要となる。</p> <p>また、未来の絵を描くことをゴールにしているが、どのような過程を経て絵を描けばいいのかが分かっていない。</p>
3	事業の名称	<b>事業化支援の仕組みづくり／事業の応援</b>	
	事業の概要	<p>事業化を行うには人材・情報・資本が必要となるが、それを支援する仕組みを整えていく。具体的な方策は以下となる。</p> <p>○人材…島の人事部にて、島全体の採用を包括的に行い配置をする。人手不足解消や、様々な取り組みに対して適切な人員配置を行う。</p> <p>○情報…ないものはないセンターにて事業の種をプロジェクト化し参画しやすい形とする。また、その事業を始めるにあたり、環境・経済・社会の3つを考慮したものであるかをはかるコレクティブインパクトの指標を作成する。</p> <p>○資本…ふるさと納税から新規事業に対して資金支援を行う未来基金を設立。共感電子貨幣を使用することで、島内外の関係資本とともに資金を得ることができる。</p>	<p>想定される課題・ボトルネック</p> <p>未来基金は事業を立ち上げてはいるが、実際にどう進めていくかなどの細かい仕組み作りができていない。また未来基金の資金源である、ふるさと納税額を上げていくための方策資源が必要となる。</p>

# 今年度事業の成果と課題、今後の意気込み

## 今年度の成果

(本事業に取り組んで良かったこと)

- マンダラを作成するにあたり、既にある事業の相関関係を洗い出し、各事業をより良くしていくための方策を関係者と話し合いながら作成することができた。
- 環境分野においては、役場担当者や関係者の意識の向上、今後事業を推進する協力者を見つけることができた。

## 地域の活動の上での課題

- ステークホルダーが増えすぎると議論が収束できず、結果少人数で話すことになった。もともと海士町には「ないものはない」という大切なキーワードがあるので、それを中心に据えてどの事業を関連付けるかを話しあう流れにしても良かった
- 既に忙しい関係者をどう動機づけをして巻きこむかが難しかった。

## 今後の意気込み

- 環境資本の具体的な調査を始める。
- 環境・経済・社会のリソース見える化に関する議論を島内で進め、最終的には海士町地域資源白書を作成したい。そのリソースを事業化し、人材・情報・資本を応援、またビジョンをブラッシュアップしていくことで環境・経済・社会を同時に高める事業が生まれ続ける仕組みづくりを進める。